

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：市民参加（2）	
日付：11月23日（月）曜日、セッション時間：10:45～12:15	
司会者名（所属）：福本潤也（東北大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(276) と (278) は，問題意識が比較的近い一方で，取り扱う問題や研究スタンスが大きく異なっていた．そのため，それぞれの研究の意義について活発な意見交換が行われた．市民参加において，“市民参加の成功”を定義することが難しい以上，様々な立場から研究が行われることは避けられない．異なる立場から，それぞれの研究の意義について議論できた点で，セッションは有益であったと言える． ・(277) は，市民参加とは関係のない研究報告であり，分析手法も他の研究報告とは全く異なっていた．研究の途中段階で明確な結論が得られていたとは言えない点もあり，議論が活発化したとは言いがたい．ただし，土木計画や交通現象を考えていく上で重要な基礎研究であることは間違いない．セッション編成を見直す必要があったように思われる．
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(276) 鄭蝦榮（京都大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論において重要な役割を果たす共感の概念がどこに入ってくるのかとの質問がなされた． ・開発中のシステムの役割について議論が行われた（ファシリテーターの役割の代替か？ 議論の終了判定に利用できるか？ 議論の中身の見える化に役立つか？ リアルタイムの議論に利用できるのか？）． ・取り扱っている事例が特殊ではないかとのコメントがあった．関連するコメントとして，専門家は戦略的に行動する場合が少ないので，普通の市民の議論に使った方がよいのではないかとのコメントがあった． ・ファセットの定義について，より高次の概念を用いて定義することで，討議のルールを明らかにできないかとの質問がなされた．
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(277) 松島格也（京都大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット空間のダイナミックな現象に適用した方がよいのではないかとのコメントがあった． ・“あの人と仲良くなっておけば今後の可能性が広がる”といった人間関係に固有の特徴を明示的に取り込むべきでないかとのコメントがあった．
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：(278) 日向菜実（東京理科大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの方法を確立することの意義について様々な質問が投げかけられた（あらゆる手法を駆使するのが普通ではないか？ 失敗を避けるための知見という理解でよいのか？ そもそも行政がプレゼン能力を高めるとはどういう意味を持つのか？） ・分析結果で得られた“専門用語を使わない方が上手いきやすい”という結論について，現実には専門用語を使わざるを得ない場面もあるのではないかとの意見が出された？